

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 二島 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

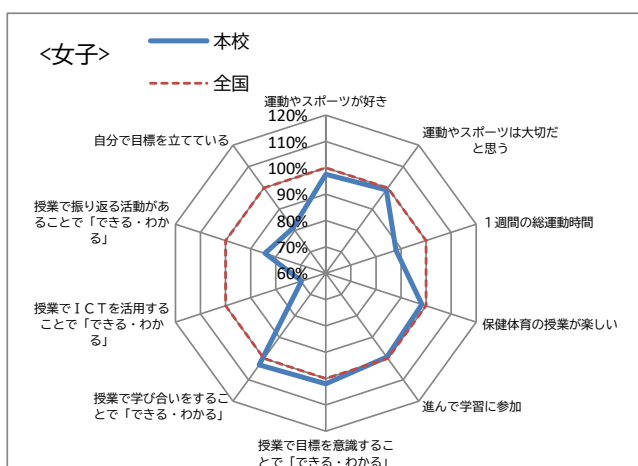
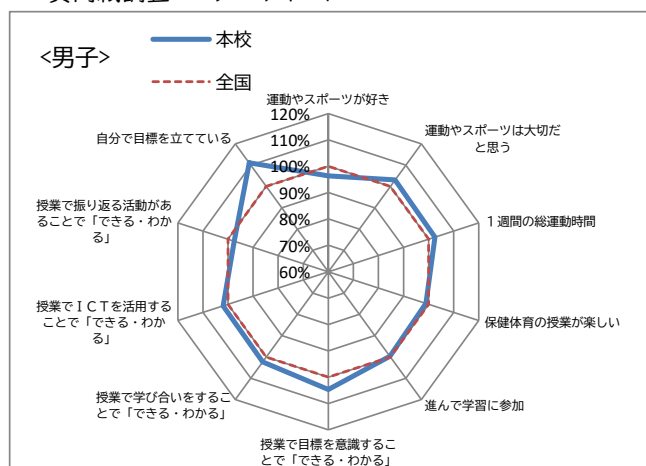
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.95	25.94	44.47	51.51	410.69	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
本市	29.93	26.34	45.51	52.15	463.01	81.17	7.88	201.59	20.38	43.31
本校全国平均以上の種目		○	○			○	○	○		

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.18	21.56	46.47	45.65	309.02	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37
本市	23.47	21.97	46.62	46.51	330.19	52.35	8.85	171.43	11.75	48.44
本校全国平均以上の種目		○					○	○		

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査リーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男子は過半数以上の質問項目において全国平均を上回った。「運動やスポーツが好き」の項目では全国平均を下回っているものの、保健体育科授業の取組における、目標達成への主体的な学びや話し合い活動、ICT活用を通じた学びの探究に関する質問項目においては、全国平均と比較してほとんどの項目で上回った。女子は教師側から提示された目標を意識しながら授業に取り組むことができているが、工夫したり、深い学びにつなげることに努力を要する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

どの単元の授業においても、自己のレベルに応じた目標設定ができるよう、めあてやねらいを明確に示し、段階を踏んだレベルアップを目指す。また、目標設定における自己の課題発見の手段として、タブレット等のICTを活用し、動きを視覚的に確認することで自らの課題発見へと繋げさせる。ペアやグループで各自が発見した課題解決のための手立てを考え、よりよい方策を模索して工夫し、達成感が得られるよう指導する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

授業や学校以外の場面で運動機会が少ないことが課題である。新体力テストの結果を個別に分析し、授業や学校以外の場面においても自主的に運動するように体力アップシートや体力向上シート等を活用しながら各自で継続して取り組む目標を設定させる。また、委員会活動と連携してボールの貸し出しを行い、昼休みの外遊びを推奨したり、家庭でできる運動課題を与えたりすることで運動習慣の定着に繋がるよう、引き続き取り組んでいく。